



王喜の郷の輪 第18回
ケアハウス王喜の郷入居者 T・N様
“楽しい日々の食事と待ち遠しい孫の誕生”

去年の7月に王喜の郷へ入居しました。私にとって集団での生活は初めてのことで、色々感謝しております。
私が一番うれしいのは1日3食の食事です。朝は味噌汁、豆腐、油揚げ、里芋と色々楽しめます。昼はサンドイッチ、カレーライス、お寿司とかいいですね。ご飯の炊き加減、酢の加減もいいですね。赤飯も小豆の加減もいいですよ。またぬたがいいです。ネギとアサリがおいしいです。夜のお刺身もいいですよ。これからもおいしい食事をよろしく願いますね。
もう一つ、今、楽しみにしている事があります。去年、孫娘が結婚してあと2カ月で初めてのひ孫が生まれます。元気に生まれてくれる事を1日1日心待ちにしています。



お知らせ

ケアハウス厨房では、令和7年度の行事食として以下の献立を予定しています。

- 4月 田舎料理の日
(あじの干物、だし巻き卵など)
- 5月 だんごの節句
- 6月 おにぎりランチ
- 7月 天の川そうめん
- 8月 夏まつりメニュー
(焼きそば、たこ焼き、焼き鳥など)
- 9月 敬老の日 松花堂弁当
- 10月 だるま食堂
(焼き飯、焼うどんなど選択食)
- 11月 駅弁
- 12月 クリスマス
- 1月 お正月 おせち料理
- 2月 節分 巻きずし
- 3月 春分の日おだんご

週に一度、手作りデザートを作っています。



- ①牛乳寒天
②サツマイモパイ(りんご入り)
③蒸しケーキ(かぼちゃ入り)
④黒ゴマプリン(黒豆のせ)

社会福祉法人緑樹会 第三者委員さんご紹介
松本靖廣様

私は、昨年春から社会福祉法人緑樹会の福祉サービス苦情解決制度における「第三者委員」を務めております、行政書士の松本靖廣と申します。
この制度は、利用者の皆さまが安心して福祉サービスを利用できるよう、サービスに関するご意見やご不満(苦情)を適切に受け止め、円滑に解決していくための仕組みです。
そして「第三者委員」とは、施設の職員や運営側から独立した外部の立場の者が公正・中立な視点で苦情の解決に関わる役割です。ご利用者本人やご家族の声だけでなく施設の職員の方たちの声にも耳を傾け、よりよいサービスの提供につながるよう必要に応じて助言や調整などを行うことがその役目です。
福祉サービスをご利用されている中で、「ちょっと気になることがある」「話を聞いてもらいたい」というようなことがありましたら、どうぞご遠慮なくまずは施設の「苦情受付担当者」を通して「苦情解決責任者」の方にお知らせください。
もしもあなたのご不満が、日ごろ接している施設の職員の方に直接申し出ることが難しい内容の場合は、私にお話されることを通じて匿名で解決策を話し合う議題に載せることもできます。私の電話番号は080-8080-0857です。もちろんプライバシーには配慮いたします。
全ての苦情が一朝一夕に解決できるものばかりとも限りません。それでもこの制度を通して、皆さまが日々穏やかに過ごせるよう、お手伝いさせていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

たんぽぽ通信

4月1日発行 218号
ケアハウス王喜の郷 令和7年4月号

Webページ <http://www.ryokujukai.jp>

待ちに待ったお花見の季節がきましたね。木屋川河川敷の桜も咲きほころんでいます。
令和7年度も「あってよかった王喜の郷」のもと、緑樹会の10の事業所が共同して地域の福祉・介護の拠点として事業を進めてまいります。
「初心忘るべからず」ということわざがあります。世阿弥の著作「花鏡」からの言葉です。最初に持っていた心、意気込み、目的などを忘れてはいけないという意味ですが、若い時の初心だけでなく、中年期、老後の初心という3つの重要な側面を説いているものです。老後の「初心」とは肉体的な衰えと美しさの変化をどのように受け入れ、深みのある芸を磨くか。どんなに年齢を重ねても自分を磨いていく努力を、という教えでした。

毎日がせわしく過ぎていく日々ですが、新しい年度が始まる今日、ちょっと初心を振り返る時間をもってみませんか。

施設長 末谷千秋

〈お知らせ〉

O様(315号)、O様(312号)、M様(211号) 入居されました。
T様、Y様 退居されました。

4月のお誕生日&行事予定

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4 清明	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14 K・F様 誕生日	15	16	17	18	19
20 穀雨	21	22	23	24	25 Y・K様 誕生日	26
27	28 ビューティーヘルパー	29 昭和の日	30			

*誕生日: お名前記載の方の誕生日です。

**ビューティーヘルパー: 出張の理美容です。食堂白板に「申込み書」を貼っています。ご自分でご記名ください。

事業所だより

ケアハウス王喜の郷 入社して2年目になりました。仕事にも慣れて余裕が出来て参りました。 寒い冬も終わり少し暖かさを感じる春となりました。食事の配達中、目に入ってくる景色は、山は緑を増し、色とりどりに咲く満開の梅の花も咲き誇ってとてもきれいですね。 春は、花粉の飛散も多く、花粉症に悩む方も多いと思います。また、朝晩の寒暖差で風邪などひかないよう注意しましょう。 自分の体は自分で守りましょう。 毎日を頑張りましょう。 桜の開花が待ち遠しいですね。  配食担当 高森豊弘	王喜の郷デイサービスセンター 桜の花も満開を迎え、春の暖かさが感じられる過ごしやすい季節となりました。 3月28日にケアハウスとデイサービス合同の誕生会を開催し、7名の誕生者の方々をお祝いました。 デイサービス職員による寸劇「赤ずきんちゃん」では、皆さんに大いに笑って頂き、ピアノと尺八のコラボ演奏では、皆さん感慨深く聴かれ、参加された皆さんには大変喜んで頂きました。 今月より新年度がスタートします。デイサービスの理念の「利用者の生き方や現状を理解し、人権を尊重し、尊厳を守って、優しく支援する」を全職員が常に考え、利用者の皆さん一人一人に見合った介護や機能訓練を行なって頂き、居室や自宅で健康で安全に過ごして頂ける事を願っています。 介護職員 田積 薫	グループホーム王喜の郷ライム 長かった冬が終わり、外を歩くと春の訪れを感じられる場面が増えてきました。寒い時期には中々散歩に参加されなかった入居者の方も、暖かくなり散歩に参加されるようになりました。出かけられたときには梅の花やつくしを観て、「春になったね」と季節を感じて頂くことが出来ました。 現在ライムでは野菜や花を植える園芸の準備を行っています。園芸には土に触れ、植物の香りを感じることでリラックスやストレスの軽減に効果がある他、心身の機能向上にも良い影響があるとのことです。 入居者の皆様に園芸を通して季節を五感で感じて頂ければと今から楽しみです。 介護職員 太田岳麦	グループホーム王喜の郷 段々と日差しや風に春を感じられるようになってきました。3月よりグループホームに異動になりました、松永です。宜しくお願いいたします。 グループホームでは午前中に敷地内の散歩をしています。「今日は寒いから行かんよ。」と3月初旬は言われる方が多かったのですが、徐々に散歩に出られる方も増えてきて、庭の花や小鳥などを見て、春の到来を楽しまれています。また散歩をすることで会話も広がります。その中でたくさんの素敵な表情を見させていただいています。花を見られる優しいみなさんにこちらも笑顔になります。 これから皆様 safely に過ごされるよう、またたくさんの笑顔が見れるようにお手伝いが出来たらと思っています。 介護職員 松永端美
王喜の郷居宅介護支援センター 今回は2月の研修に参加した事について、ケアマネジャーとして感じた事を伝えたいと思います。 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 教授 山根俊恵先生を講師に迎え、テーマは「さまざまな生きづらさを抱いた人への支援のあり方」と言う内容の講義を受けました。 講師より、利用者様の支援をする時に「問題行動がある」と決めつけて支援していませんかとの問いに、私自身ハットした思いが走りました。問題行動があるのではなく、問題が起きたきっかけは何か、いったい誰にとっての問題なのかという視点に私自身が考えられていない事に気づかされました。利用者様としっかり対話し、問題行動として捉えるのではなく、その行動にある利用者様の思いに目を向けられるよう、今後は真摯に向き合っていくと思いました。 介護支援専門員 中西 威	王喜の郷ホームヘルパーステーションいるか 少しずつ、体が動きやすくなる時期になりました。 日向ぼっこなどをされると気持ちがいいと思います。 私は今、103歳の女性の自伝を読んでいます。 彼女曰く、「体は思うように動きませんが、心は自由。出来んことが多くなったではなく、一つできた。」と自分を褒めて一日を過ごす気楽になるそうです。読んでいて気持ちがほっこりしました。私も、このことを心に残して過ごしていこうと思いました。 今後ご利用者のできることが維持できるように支援を行っていきますので、よろしくお願いします。  サービス提供責任者 山田 朋子	王喜の郷ミントの家 シニアハウス王喜の郷 暖かな春の日差しが心地よい季節となりました。 日頃外気浴にあまり出られない方も「春の花が咲き始めていますよ」の声かけに顔がほころび「行ってみようか」とのお返事。小さな花に季節を感じて頂いています。 3月に行った誕生会は放課後等デイサービスさくらの児童やグループホームの方と一緒に行いました。 インドネシアの伝統舞踊「ジョジョ」やマツケンサンバを職員が踊り、歌はさくらの児童と一緒に歌いました。 皆さんからは「マツケンや珍しい踊りが良かった」との声が聞かれ、児童と握手をしたり、微笑ましい様子が見られました。  介護職員 村上 雪子	放課後等デイサービス さくら 気温が暖かくなり、子どもたちと地域を散策すると、つくしが顔を出し、梅の花が咲き始めるなど、春の訪れを感じることができました。 「さくら」ではこの春、高校を卒業した児童が2名います。二人とも、自分の得意なことや好きなことを楽しみながら、上手にコミュニケーションを取れるようになりました。 難しい課題にも一生懸命に取り組み、大きく成長した姿を見ると、これからまだまだ伸びていくのだらうなと感じます。次に会える日がとても楽しみです。 また、進級・進学する子どもたちは、新しい学校生活にワクワクドキドキしながら春休みを過ごしています。 新年度も、子どもたちと一緒に成長していけたらなと思います。  さくら支援員 木村 歩夢